

2022年5月19日  
井関農機株式会社

2022年12月期 第1四半期 決算説明会  
質疑応答要旨

(問1) 第1四半期決算の社内計画に対する進捗は？また第2四半期の営業利益はどのようなイメージを持っているか？

(回答)

- ・四半期ごとの計画は開示していないため詳細は申し上げられないが、期初計画対比で売上高は、国内はマイナス、海外はプラス、国内外トータルでマイナスとなっている。結果として営業利益は期初計画対比で劣後している。国内においては、新型コロナウイルスの影響に加えて米価下落が販売面でのマイナスとなった。従前から販売面における新型コロナウイルスの影響は国内外合わせてミニマイズ出来ていると考えているが、国内だけで考えると展示会の開催が出来ないなどマイナス効果はある。3月以降WEB展示会の活用など工夫しながら挽回していく。利益面では国内のマイナス影響が大きく、ビハインドしている。原材料価格の高騰はほぼ見通し通りであった。
- ・昨年の第1四半期は経営継続補助金などに伴う需要喚起が1～3月にあったため国内が例年以上に好調だった。加えて海外も堅調に推移した。第2四半期においてもこのプラス効果が残っており、上期レベルで申し上げると前年対比では引き続き厳しいと考えている。

(問2) 通期業績予想について、期初予想から営業利益の増減分析などに変化はあるか？

(回答)

- ・前期は、第1四半期は「特によかった」、第2四半期は「よかった」、第3、4四半期は「例年よりも弱かった」。その中で今期は第2四半期あたりから挽回していけると考えている。まだ不確定要素が多い中ではあるが、国内・海外ともに受注残を抱えており、受注残を解消し通期予想レベルを確保していきたい。また、海外は引き続き受注は堅調であり、国内では6月に価格改定を実施する。これらを梃子に挽回を図り業績予想レベルまでもっていきたい。

**(問3) 中期経営計画の達成に向けてポジティブな進捗はあるか？**

(回答)

- ・1つ目は海外売上高。中期経営計画においては、従前以上に海外にストレスをかけて計画を策定している。初年度である2021年の売上高407億円は、期初計画からオーバーした。今期の期初計画は更に上回っており、中期経営計画に対し、かなりプラスで推移をしていると申し上げられる。当然北米における住宅投資の活況が今後沈静化することは考えられるが、それを織り込んだとしてもかなり地力をつけてきたと確信している。
- ・2つ目はPT. 井関インドネシアへの生産移管。この投資は中期経営計画には織り込んでいなかった。生産体制の最適化は中期経営計画の中核施策として挙げており、国内4製造所、海外3工場をどのように使いながら最適生産体制を構築していくかというところがカギである。足許の国内製造所においては生産が逼迫。人材確保含めて厳しい状況。海外向けの低価格トラクタを生産するPT. 井関インドネシアを更に増強していく。この辺りは中期経営計画の進捗を加速させるポジティブな進捗であると考えている。
- ・3つ目は、国内では先端・ICTに加え有機農業など環境にやさしい農業が大きなテーマとなってくる。こうした取り組みについて、先を展望して地方公共団体あるいはスタートアップ企業と進めさせていただいている。今年に入って新潟市、島根県及び浜田市、それから山形デザイン様と環境保全型モデルの構築といった枠組みの中で提携している。このような取り組みによって将来のビジネスへの足掛かりを作っていきたい。

以上

**将来予測に関する免責事項**

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、2022年12月期第1四半期決算説明会開催日(2022年5月13日)時点で当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。